

## ①企業訪問

私は企業訪問で、新日鐵住金の本社へ行きました。

本社へ着き、ビルの中に入った瞬間に外の暑い空気から一変して、冷房のきいた涼しく快適な空間が私たちを迎えてくれました。ビルは思った以上に高く、仙台とは違って周りにも高くきれいなビルが立ち並んでいました。

新日鐵住金の本社ビルに入ってすぐに思ったことは、中がきれいに掃除されていて、ゴミ1つ落ちていないということです。床もピカピカで、これが日本のトップ企業の本社なのか、と思いました。また、セキュリティも厳重で、警備員さんにカードを見せないと本社の中へは入れないようになっていました。そんな警備のされているようなところに高校生の時に入れることはとても貴重なことだと思いました。

新日鐵住金とは、ものをつくる会社、メーカーへ「素材」を提供する素材メーカーです。新日鐵住金はその中で、自然界に存在する原料から高機能の鉄鋼製品をつくる鉄鋼メーカーというところなのだそうです。鉄鋼というと昔の産業だというイメージがありますが、鉄鋼製品の需要は先進国では横ばいですがアジアなどでは最近急に増えているそうです。また、生産量は国別に見るとだんとつで中国が1位、日本が2位、メーカー別に見ると1位がルクセンブルクの会社、2位が新日鐵住金、3位以降は中国が多いそうです。私も、今までは鉄鋼という一昔前のようなイメージがあったのですが、需要が減っているどころかアジアなどでは逆に増えていると聞いてびっくりしました。また、生産量をメーカー別に見ると新日鐵住金が2位だということにもとてもびっくりしました。そんなに世界的に見ても大きな会社だったとは知らなかったです。

新日鐵住金では、技術、コスト、グローバル化という3点のことを重視しているそうです。また、世界中に生産、加工拠点があるそうです。生産しているもののうち、自動車用に生産している薄板という種類の金属は、アメリカ、中国、ブラジル、タイ、インドネシアなどに拠点があり、海外生産の合計は1000万トン規模だそうです。1000万トンというとなかなか想像がつかないですが、莫大な量なのだということは分かりました。

また、新日鐵住金での仕事紹介もありました。まず最初に、パイプ営業の佐藤さんという方が紹介してくださいました。佐藤さんは、入社してから自動車用鋼板の営業、製鉄所の人事、そして現在は国内外の自動車用鋼管の営業をやっているそうです。現在やっている仕事は、国内外の自動車メーカーなどに自動車用鋼管を売る仕事なのだそうです。仕事の特徴は、商品がお客様の用途をふまえたオーダーメイド品で、お客様と共同開発をするそうです。また、営業の役割は、ニーズがどこにあるのか、社内のリソースを組み合わせお客様にとって最適の提案を考えるということだそうです。商品をつくるときに考えることは、外部環境、競合他社、開発要素、国内外どこの拠点で生産するか、設計・加工までサポートできるか、コスト、納期が間に合うかなどだそうです。仕事のおもしろさは、正解が分からないので仲間と議論を重ねて最適解を追求すること、信頼を獲得し受注したときの達成感、などだそうです。

次に、法務の千葉さんという方が紹介してくださいました。千葉さんは、製鋼所で人事、総務をやっているそうです。サポート的な役割で、契約書、法的サポート、法律相談、訴訟対応、クレーム対応の後方支援などをやるそうです。また、国内法務室でも、海外と関わる機会があるそうです。千葉さんは、「頑張ればそこそこに道は開ける」、「やった後悔よりはやらない後悔のほうが後悔するから、後悔しないように迷ったらやる」とおっしゃってくださいました。2番目の後悔についての言葉は私も聞いたことがあり、共感できました。

その次に、技術の黒澤さんという方が紹介してくださいました。7割程度の人が理系だそうです。また、建設に関わる鉄は、わざと壊してみても鉄の体力を確認するそうです。また、2011年の東日本大震災のときは早く、安く、確実に整備をするよう心がけたそうです。最近では鉄の使い方をレクチャーしたり、中国のプロジェクトに日本の鉄を使ってもらおうよう提案したりしているそうです。

黒澤さんからは、「仲間を大切に」、「文武一道、何かに一生懸命取り組み、極めよう」という言葉をいただきました。

最後に、広報の吉住さんが紹介をしてくれました。吉住さんは、人事管理などをしていらっしゃるそうです。また、企業価値や株価を最大限に高める戦略的な広報活動をしていらっしゃるそうです。

次に、ディレクトフォースの皆さんなどと自由に話し合いをする時間がありました。その中で私が印象的だった言葉は、「壁を乗り越えることが大事、ときどきその壁の周りを回っている人がいる」、「高校のうちは遊んで過ごしていいから、大学に行ったら本気で勉強しなさい。大学は学者になるための訓練を受けるためのところで、そこで成長する。大学では、1年生のうちに学問的なことを勉強しているいい先生を見つけて、全面的に食いつきなさい。」、「(読み書きを重視していて、話す能力についてあまりやっていない日本の英語教育についてどう思うかという質問に対して)読み書きを重視しているが、それで良いと思う。読み書きができる人なら、話すことは、外国で生活することになるとすぐに話せるようになる。なので、読み書きがしっかりできていることが大事。」などでした。日本の英語教育について、今まで私は、日本人は読み書きはできるが話す能力はあまりないという話をよく耳にしたことがあり日本人はもっと話す能力を高めなくてはならないのだと思っていたので、ディレクトフォースの方の意外な答えにびっくりしました。

企業訪問では、普段は絶対に入ることのできない本社で大変ためになるお話を聞くことができ、ここには書ききれないくらいたくさん驚きや発見がありました。この体験をこれから活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

## ②中国大使館訪問

私は、班行動で中国大使館へ行きました。

まずびっくりしたことは、警察官がたくさんいるということです。やはり国と国とを繋ぎ、友好関係を保つ重要な役割をしている場所なのだと思いました。中国大使館は地下2階～8階まであり、2階からは事務室なのだそうです。また、領事部などの別館もあるそうです。また、中国に関する映画を放映する映画ホールや、大宴会場、大使館員が体力をつけるために午後6:00～午後10:00まで使えるプール、テニスコートなどがあるそうです。卓球ができるところもあり、福原愛さんがいらっしゃって大使館員と大会をしたこともあるそうです。

中国大使館からは東京タワーや六本木ヒルズが見えます。また、寮には50人くらいよ人が人があるそうです。大使館員に言語能力以外に必要なことは、その国の基本的なマナーを知るなどで、あとは部門ごとに違うそうです。例えば、文化省の人は日中両方の文化を知る必要があるそうです。また、大使館の方は、大使館員になってからは価値観が変わったとおっしゃっていました。

また、大使館員の方は特に特権はなく、外交官の公約によって日本の法律に従うことになっていますが、中国大使館は中国の領土なので中国の法律にも従わなくてはならず、日本と中国、2つの国の法律に縛られているそうです。また、一般的な中国人から見た日本は、という質問に対しては、経済の発展した先進国で、平和を愛しているが、平和を大切にしていない人もいる、というイメージなのだそうです。中国は、経済は発展しているが、PM2.5などの環境問題など、さまざまな問題があるとおっしゃっていました。また、マスコミは一部の中国だけを見ているので客観的に中国を見てほしい、中国にはたくさん良いものもあるので自分の目で中国を見るのもいい、とおっしゃっていました。最後に外国を知る一番早い手段として、その国の美食を食べるという方法もあるとおっしゃっていました。(笑)中国大使館は庭などもあってとてもきれいで、施設も充実していてびっくりしました。

私は国際関係の仕事に興味があったので、大使館に行って大使館の仕事の内容や施設、イメージなどを聞いてとても良かったです。ありがとうございました。